

平成 19 年 11 月 1 日
科学技術政策研究所

「科学技術の状況に係る総合的意識調査（定点調査）」 第 1 回調査の結果について

日本の代表的な有識者や第一線級の研究者は、日本の科学技術の状況を、どのように感じているのか？ 科学技術政策研究所では、約1,200名を対象とした意識調査を行いました。第1回調査の結果がまとまりましたので、お知らせします。

この調査では、日本の代表的な有識者や第一線級の研究者などに、科学技術の現状や課題についての主観を、アンケートで尋ねました（例：現状は充分かどうか、2001年ごろと比べて良くなっているか）。2006年から5年間、同じ対象者に同じ質問を毎年繰り返し行うことで、第3期科学技術基本計画期間での日本の科学技術の状況の変化を知ろうとしています。

2006年11月に実施した第1回調査からは、次のようなことが明らかになりました。

- 重点推進4分野及び推進4分野を発展させる上で、人材の育成・確保が求められています。特に基礎研究の段階の人材の必要性が示されました。
- 特に推進4分野の専門家は、研究開発人材の数や質の状況が2001年頃に比べて低下しているという危機感を示しています。
- 若手人材育成のためには、ポスドクや博士課程修了者の就職先の確保と博士課程在学者への経済支援が必要であるとの意識が示されました。
- ほとんどの分野で、世界トップレベルの成果を生み出すために「研究者の自由な発想による公募型研究費（科学研究費補助金など）」の拡充が必要と考えられています。大学・公的研究機関・民間企業の回答者が共通な意識を持っています。
- 産学連携の高まりは、大学の研究活動、教育活動の双方に良い効果をもたらしていると評価されています。今後の産学官連携では、基礎研究段階をもう少し重視すべきとの意見が多かった点が注目されます。

これらの結果は、第3期科学技術基本計画の開始直後の状況を現しており、2010年まで変化を追う調査の基準となります。

現在、第2回目調査を実施中です。評価を変えた回答者には、その理由を尋ねる事で、日本の科学技術の状況の変化を追跡します。来年の春には結果を報告する予定です。

科学技術システム定点調査担当

科学技術政策研究所 科学技術基盤調査研究室 蛭原

Tel:03-6733-4910(直通) Fax:03-3503-3996 Email:teiten-s@nistep.go.jp

分野別定点調査担当

科学技術政策研究所 科学技術動向研究センター 伊藤

Tel:03-3581-0605(直通) Fax:03-3503-3996 Email:teiten-b@nistep.go.jp

ホームページ <http://www.nistep.go.jp>